

北海道駒ヶ岳の火山活動解説資料（平成30年5月）

札幌管区気象台
地域火山監視・警報センター

火山活動に特段の変化はなく、静穏に経過しており、噴火の兆候は認められません。
噴火予報（噴火警戒レベル1、活火山であることに留意）の予報事項に変更はありません。

○ 活動概況

・ 噴気などの表面現象の状況（図1-①～③、図2～5）

21日から23日にかけて現地調査を実施しました。昭和4年火口では、昨年5月にみられたごく弱い噴気は確認されず、熱活動の高まり¹⁾は認められませんでした。また、その他の火口の状況にも変化はありませんでした。

山麓に設置した監視カメラでは、昭和4年火口の噴気は観測されませんでした。

・ 地震及び微動の発生状況（図1-④～⑥、図6）

火山性地震は少なく、地震活動は低調に経過しました。

火山性微動は観測されませんでした。

・ 地殻変動の状況（図7）

GNSS²⁾ 連続観測では、火山活動によると考えられる地殻変動は認められませんでした。

1) 赤外熱映像装置による。赤外放射温度計や赤外熱映像装置は、物体が放射する赤外線を検知して温度や温度分布を測定する計器です。熱源から離れた場所から測定できる利点がありますが、測定距離や大気等の影響で実際の熱源の温度よりも低く測定される場合があります。

2) GNSS (Global Navigation Satellite Systems) とは、GPSをはじめとする衛星測位システム全般を示す呼称です。

この火山活動解説資料は札幌管区気象台のホームページ(<https://www.jma-net.go.jp/sapporo/>)や気象庁のホームページ(https://www.data.jma.go.jp/svd/vois/data/tokyo/STOCK/monthly_v-act_doc/monthly_vact.php)でも閲覧することができます。

この資料は気象庁のほか、国土地理院、北海道大学、国立研究開発法人防災科学技術研究所、北海道及び森町のデータも利用して作成しています。

資料中の地図の作成に当たっては、国土地理院長の承認を得て、同院発行の『数値地図50mメッシュ（標高）』を使用しています（承認番号 平29情使、第798号）。また、同院発行の『電子地形図（タイル）』を複製しています（承認番号 平29情複、第958号）。

今回の火山活動解説資料（平成30年6月分）は平成30年7月9日に発表する予定です。

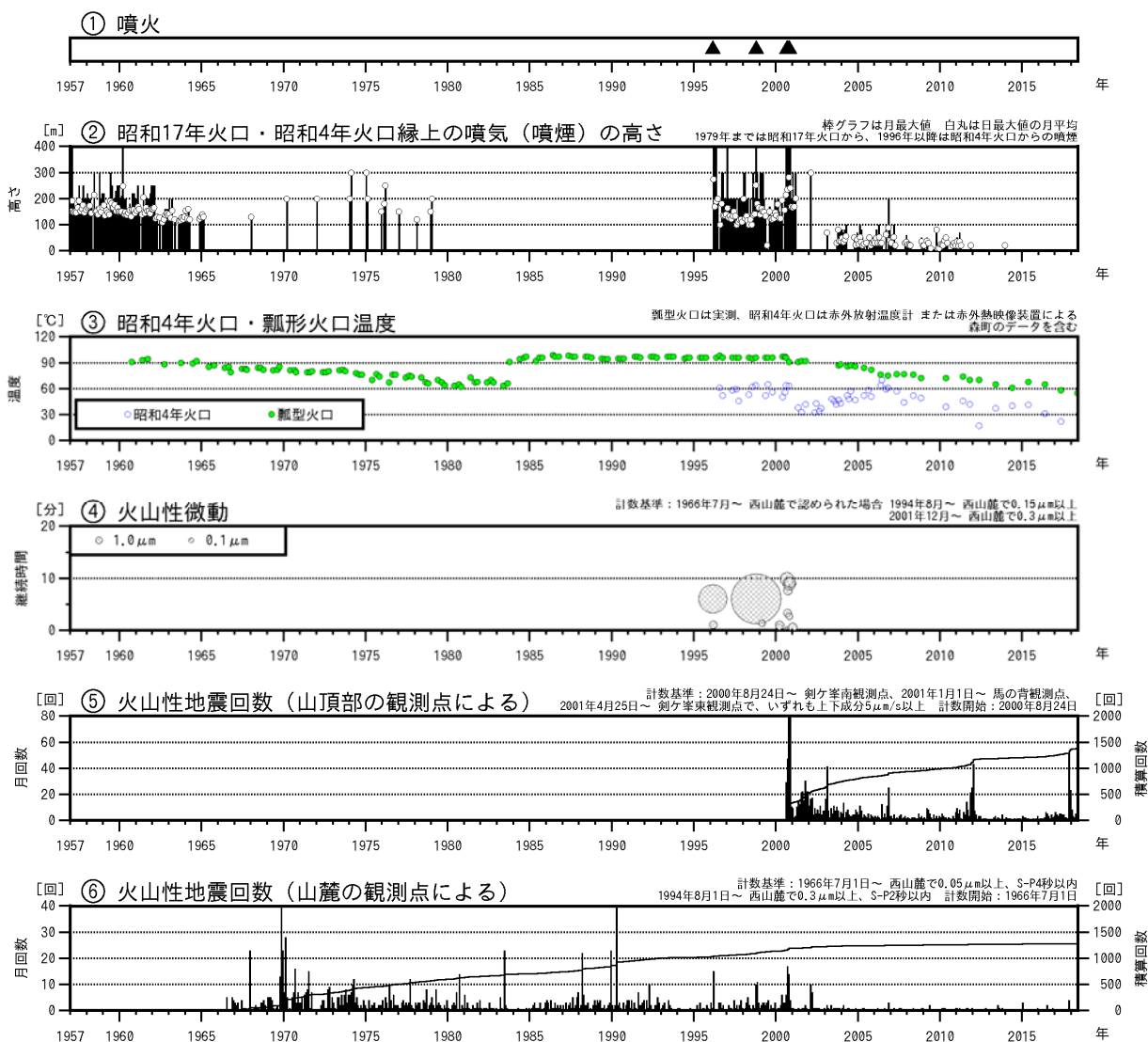


図1 北海道駒ヶ岳 火山活動経過図 (1957年1月～2018年5月)



図2 北海道駒ヶ岳 東南東側から見た山頂部の状況
（5月27日、鹿部公園南東監視カメラによる）

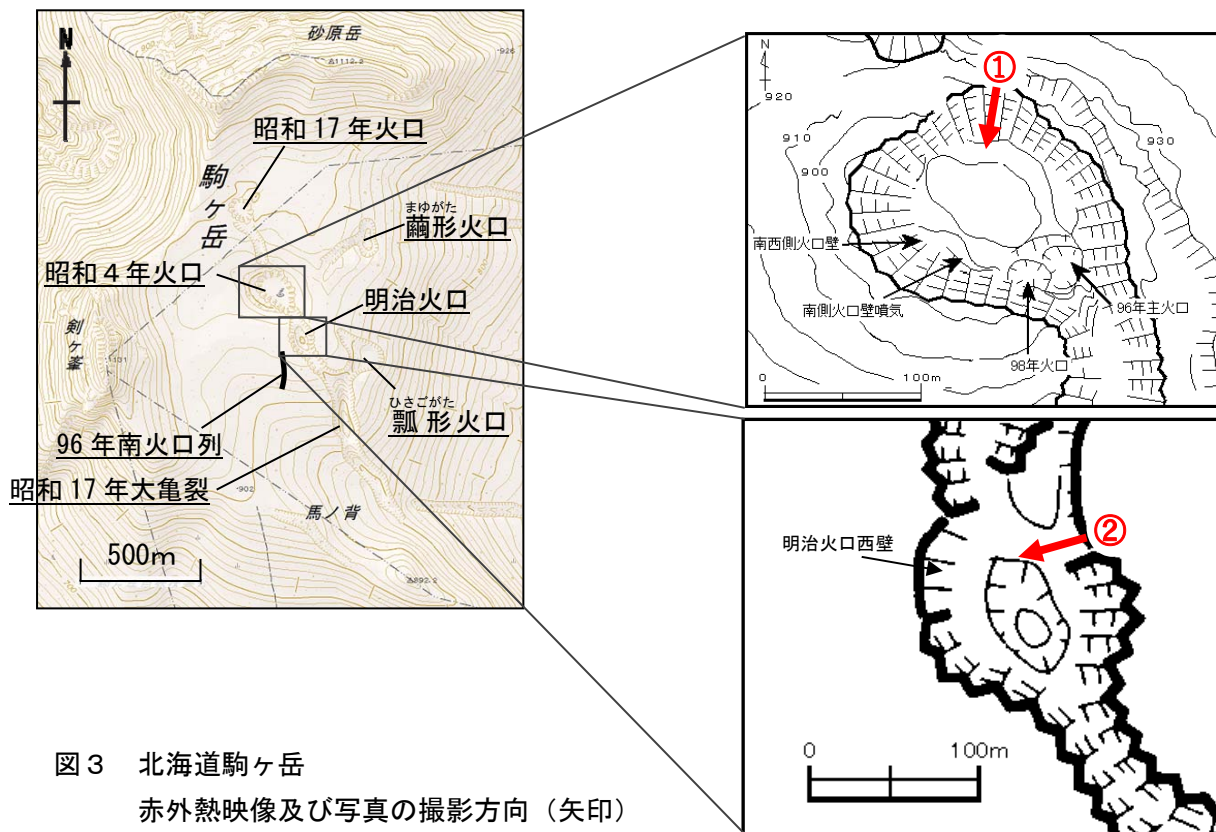


図3 北海道駒ヶ岳
赤外熱映像及び写真の撮影方向（矢印）

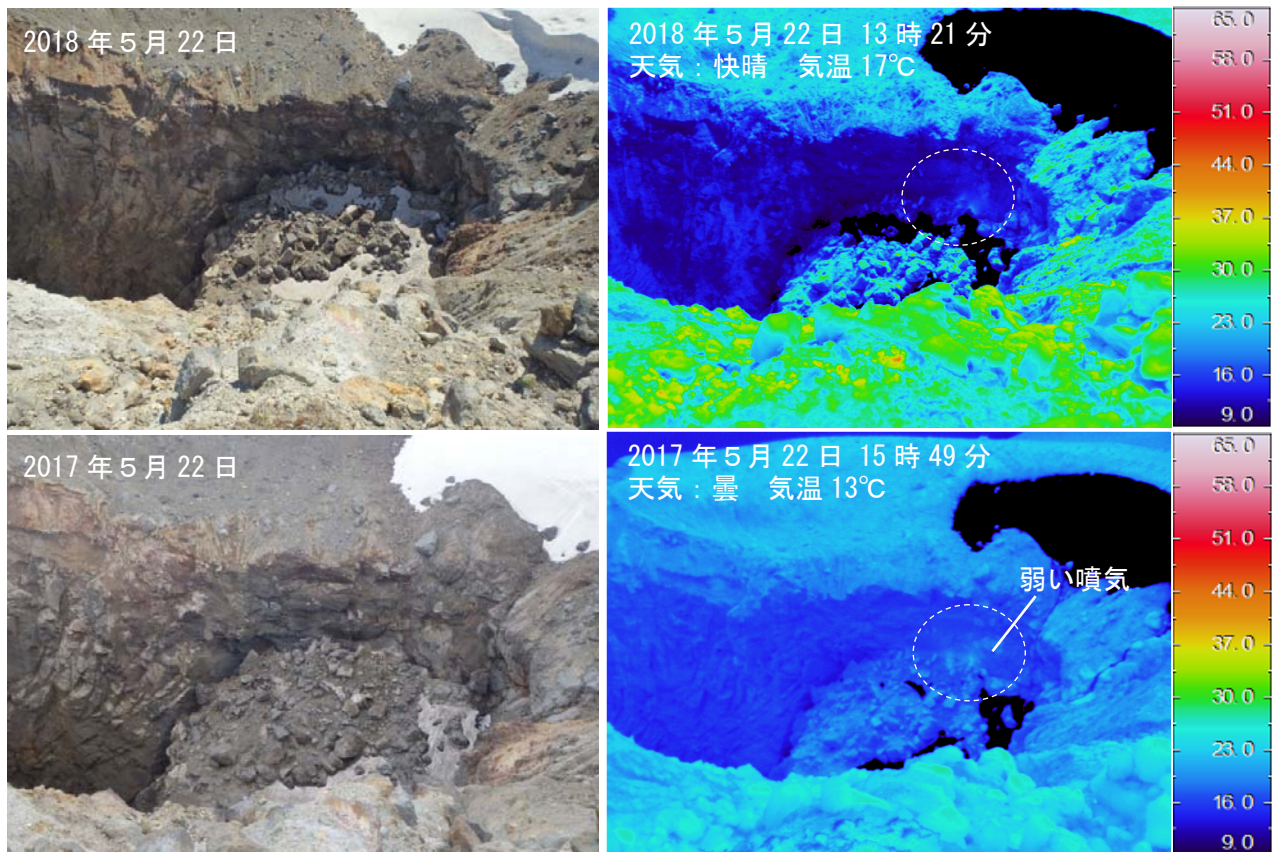


図4 北海道駒ヶ岳 昭和4年火口内の地表面温度分布 北側(図3の①)から撮影
 ・昨年5月にみられた噴気孔周辺のごく弱い噴気(白色破線部)は確認されず、
 熱活動の高まりは認められませんでした。

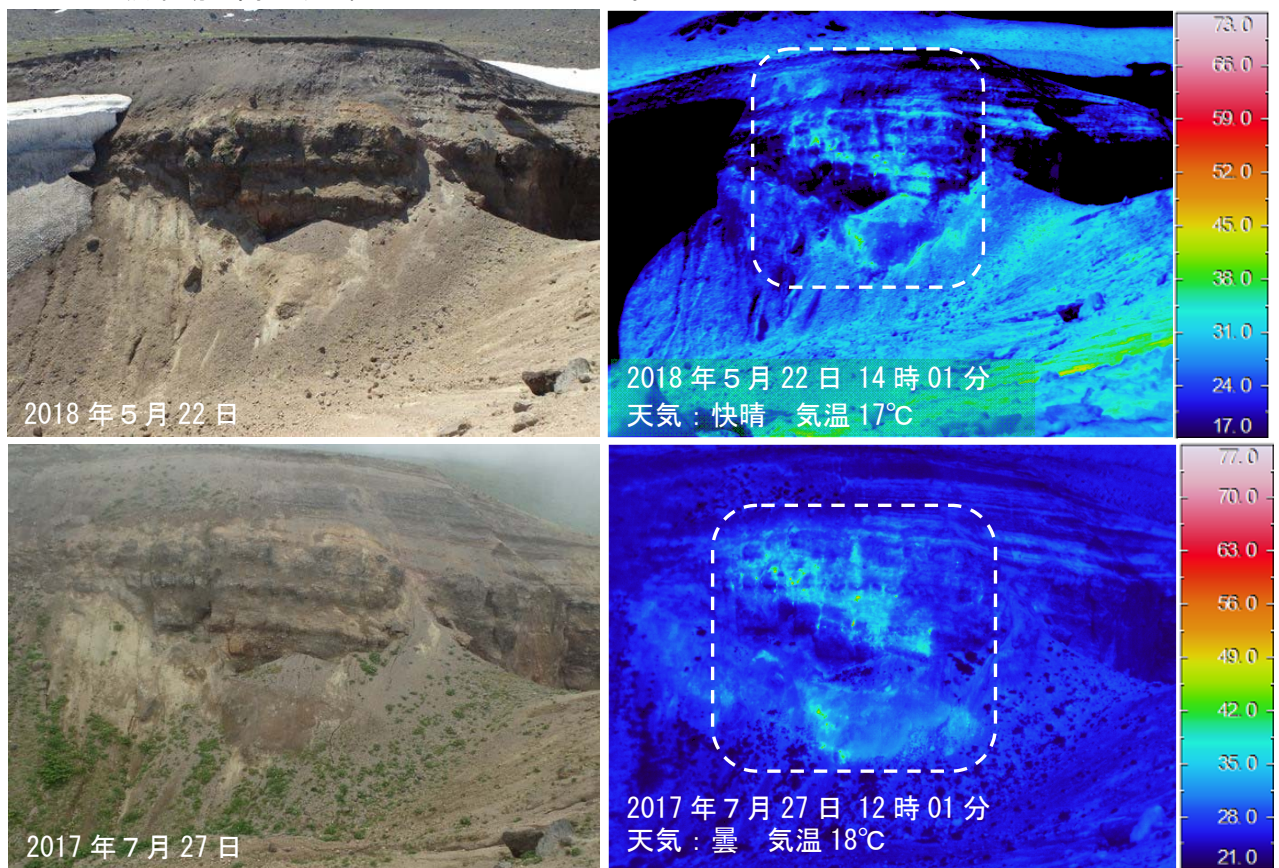


図5 北海道駒ヶ岳 明治火口西壁の地表面温度分布 東側(図3の②)から撮影
 ・2017年7月27日と比較して、熱活動の高まり(白色破線部)は認められませんでした。

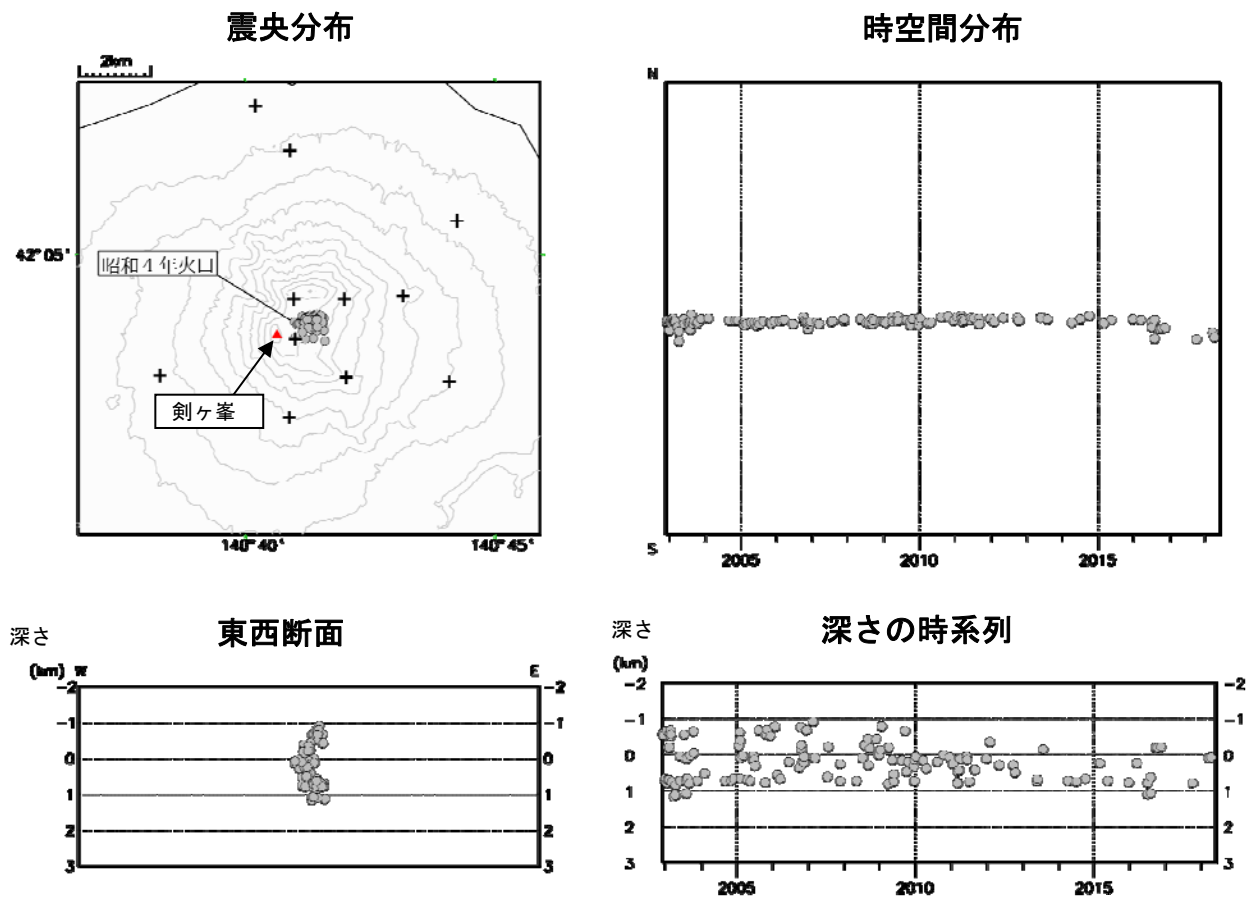


図6 北海道駒ヶ岳 火山性地震の震源分布 (2002年12月～2018年5月)
 +印: 地震観測点
 ・今期間、震源が求まった地震はありませんでした。

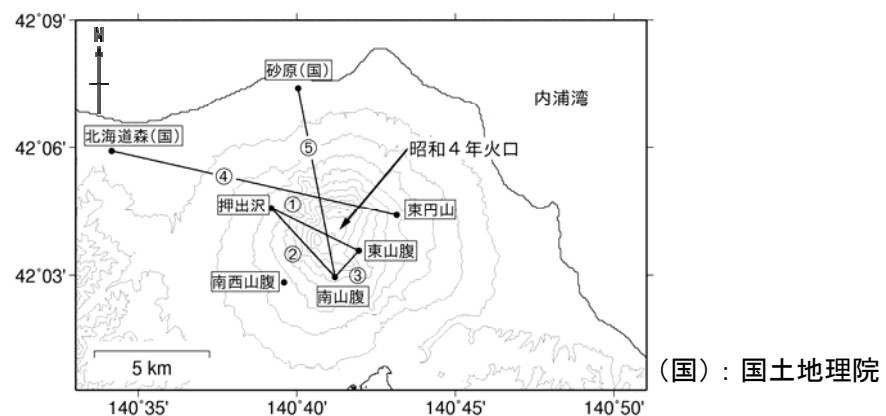
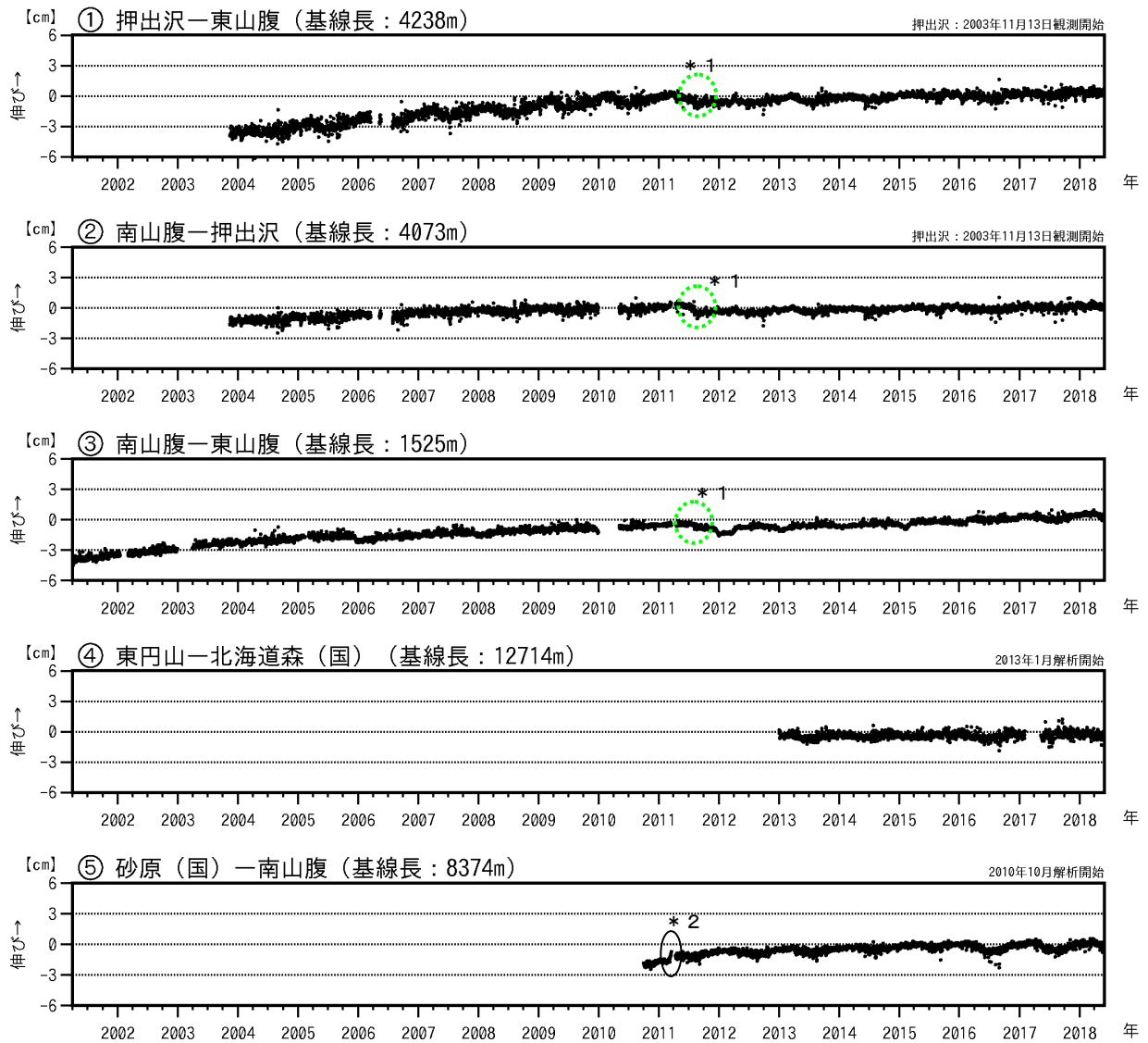


図7 北海道駒ヶ岳 GNSS連続観測による基線長変化（2001年4月～2018年5月）及び観測点配置図
GNSS基線①～⑤は観測点配置図の①～⑤に対応しています。

GNSS基線の空白部分は欠測を示します。

①～③の緑点線内の変動（*1）は、機器更新によるものです。

- ・⑤の黒楕円内の変動（*2）は、2011年3月11日に発生した「平成23年（2011年）東北地方太平洋沖地震」の影響によるものであり、火山活動によるものではありません。

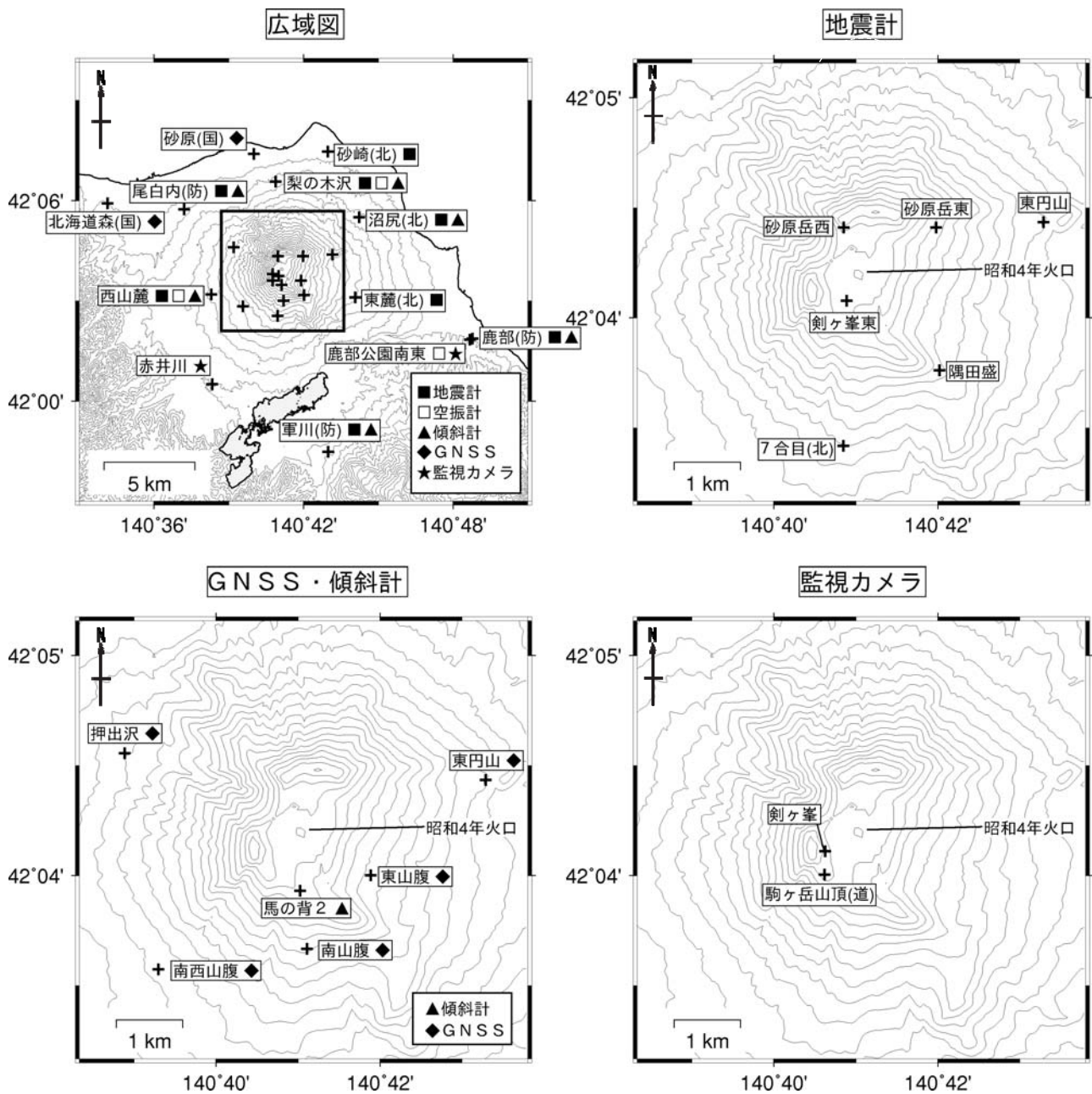


図8 北海道駒ヶ岳 観測点配置図

各機器の配置図は、広域図内の口で示した領域を拡大したものです。

+印は観測点の位置を示します。

気象庁以外の機関の観測点には以下の記号を付しています。

- (国)：国土地理院
- (北)：北海道大学
- (防)：国立研究開発法人防災科学技術研究所
- (道)：北海道